

農業体験を通して、未来の担い手へのキッカケづくり (奈良県・安堵町農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

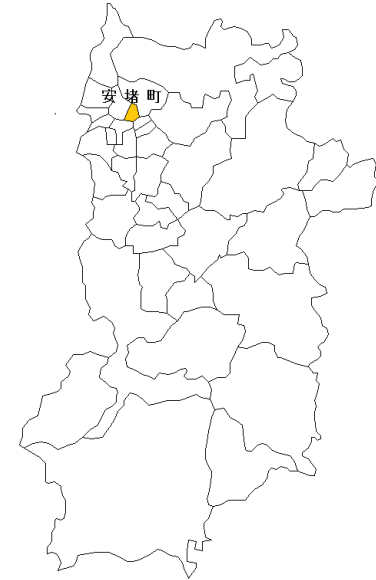
新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

【農業委員会の体制】(平成29年7月20日移行)

○新体制:農業委員15人 ← 旧体制:農業委員17人



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

○地区の特徴・状況、課題

本地域は、奈良県の西北部を占める奈良盆地の中央よりやや西北部に、また生駒郡のなかにおいては東南部に位置し内陸性気候型であり、農業経営は水稻を中心に野菜、イチジク、いちごの経営が盛んな地域である。
若年層の担い手が少ないこと、担い手の高齢化とそれに伴う農地の遊休化の恐れが現在の課題である。

3 活動(取組と工夫)の結果

○課題解決に向けた活動

農地利用の最適化の取り組みとして、安堵町の発展に寄与するため、平成29年度に農業委員会でジャガイモと里芋の作付けを実施した。

収穫時には、保育園児、幼稚園児、小学生を対象に農業体験の一環として、収穫体験を実施した。

ジャガイモは老人総合福祉施設あくなみ苑とグループホーム安堵園に寄贈し、里芋はオブジェ『案山子』制作展示実行委員会の各団体に寄贈した。

農業体験を実施することにより、未来の担い手の動機付けを行うことが出来た。

ジャガイモと里芋の寄贈により、老人総合福祉施設あくなみ苑、グループホーム安堵園及びオブジェ『案山子』制作展示実行委員会の各団体の食料確保に資することが出来た。

平成30年度は、さつまいも、里芋、大根の作付けを実施している。